

# 事業報告書

## 1. 法人の概要

### (1) 基本情報

#### ①法人の名称

学校法人白峰学園

#### ②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

横浜市港南区港南台4-4-5、045-833-7100、045-832-7246、<http://www.yokotan.ac.jp/>

### (2) 建学の精神

建学の精神「愛と奉仕」と教育理念

クリスチャンであった平野恒により創立された本学は、『キリスト教の「愛と奉仕」を精神の礎として社会に貢献する人材を育成する』ことを建学の精神としています。

この建学の精神に則り、保育科単科の本学では、『キリスト教の「愛と奉仕」の精神を育む人間教育、教養教育によって、女性としての人間性をより豊かなものとし、「保育者養成の道ひとすじに」、児童の福祉と幼児教育に関する専門的知識と実践による技術を教育することを通じて、子どもたちの「豊かな育ち」を支えることができる、「愛」に満ち、「人間性」と「実践力」に優れた、さらに「自己成長力」を備えた保育者を育てる』ことを教育理念・教育目標としています。

### (3) 学校法人の沿革

1940年12月 平野恒が横浜保姆学院を創立し、幼児教育に携わる幼稚園、保育所の保母養成所として発足。

1945年 5月 戦災にあい休校。

1947年 4月 仮校舎にて再開。

1948年 5月 横浜市南区平楽に校舎を新築。

1948年12月 児童福祉法に基づく厚生大臣指定の保母養成校となり神奈川県への委託校になる。

1949年 4月 横浜保育専門学院と改称。

1962年 9月 横浜市南区中村町4丁目に移転。

1966年 1月 学校法人白峰学園設立。横浜女子短期大学設置認可。

1970年 4月 横浜市磯子区洋光台3丁目横浜女子短期大学附属幼稚園開設。

1976年 7月 横浜市港南区港南台9丁目運動場開設。

1979年 4月 横浜市港南区港南台4丁目新校舎を建設し移転。

1980年 3月 体育館落成。

1983年 3月 講堂落成。白峰学園横浜女子短期大学保育センター開設。

1987年10月 新図書館落成。

1996年10月 横浜女子短期大学55周年記念式典挙行。

1998年 1月 創立者・平野恒逝去。

1998年 2月 平野建次学長就任。

2019年 1月 佐藤寛之学長就任。

### (4) 設置する学校・学部・学科等

保育科

### (5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2019年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
横浜女子短期大学	保育科	200名	88名	400名	198名

## (6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
横浜女子短期大学	50%	58%	82%	99%	90%

## (7) 役員の概要

理事 定員5～7名

氏名	就任年月日	常勤・非常勤
平野 成輔	2019年1月18日	常勤
三田村 鳳治	1984年5月31日	非常勤
篠崎 芳明	2004年5月31日	非常勤
中川 緑	2006年5月31日	非常勤
松川 和義	2018年5月31日	非常勤
佐藤 寛之	2019年1月18日	常勤

監事 定員 2名

氏名	就任年月日	常勤・非常勤
鴫田 要一	2004年5月31日	非常勤
谷山 三晴	2006年5月31日	非常勤

## (8) 評議員 定員14～17名

氏名	就任年月日	常勤・非常勤
平野 成輔	1997年5月31日	常勤
三田村 鳳治	1984年5月31日	非常勤
船田 松代	1993年11月25日	非常勤
戸田 節子	1996年5月31日	非常勤
兼子 盾夫	1996年5月31日	非常勤
坂井 章子	1998年5月31日	非常勤
佐藤 寛之	2002年5月31日	常勤
篠崎 芳明	2004年5月31日	非常勤
中川 緑	2006年5月31日	非常勤
岡田 栄一	2006年5月31日	非常勤
柳川 昌恵	2016年5月31日	非常勤
岡本 眞幸	2018年4月1日	常勤
松川 和義	2018年5月31日	非常勤
武田 敦子	2019年5月31日	常勤

## (9) 教職員の概要

短期大学 本務教職員 30名・平均年齢 51.9歳  
 兼務教職員 34名・平均年齢 50.7歳  
 附属幼稚園 本務教職員 9名・平均年齢 34.3歳  
 兼務教職員 5名・平均年齢 48.2歳

## (10) その他

系列校の状況

・横浜女子短期大学附属幼稚園 所在地 横浜市磯子区洋光台3-3-30

## 2. 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

・「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」

卒業認定・学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー 「どのような人材を育成するか」

保育科単科の本学で学修を進め、「愛と奉仕の精神」を育み、保育の現場で活躍できる教養、専門知識、専門技術を身につけ、以下のような《学修成果》について一定水準に到達した者で、学則に定める所定の単位を修得した者に「短期大学士（保育学）」の学位を授与します。あわせて、必要な単位の修得により、保育士証と幼稚園教諭二種免許状を取得できるようにし、全人格的に社会に貢献できる保育者を育成します。

#### I. 人として求められる基本的資質・能力

##### 1. 人としての基本的資質

- ①人に温かに愛情を持って接することができる（愛）
- ②進んで人のために役立つ行動をとることができる（奉仕）
- ③自己肯定感をもち、学びや自己成長への意欲と行動力をもっている（自己肯定・自己成長）

##### 2. 社会人としての3つの基礎力

- ①周囲の人と適切なコミュニケーションをとることができ、連携・協働することができる（基本的な対人関係能力）
- ②自分を大切にし、自主的・主体的に行動できる（自習性・主体性）
- ③行うべき課題を理解し、それをやり遂げることができる（課題遂行能力）

#### II. 保育者となるために必要な基礎的資質・能力

- ① 教育的愛情をもち、保育者としての基本的な使命感・責任感をもっている
- ② 保育者として、子どもや保護者、保育者、地域の人々と温かな人間関係を築き、適切なコミュニケーションをとり、連携・協働することができる（I-1-①②、2-①と重なる）
- ③ 保育者に必要な幼児理解や学級経営・組織運営力の基礎が身についている
- ④ 保育内容を基本的、総合的に理解し、その指導力が身についている

教育課程の編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー 「どのような教育を行うか」

本学の教育理念を実現するため、ディプロマ・ポリシーで示した人材を育成するために、保育科単科の本学では、大きく「教養科目」と「専門教育科目」の2領域に分けて科目設定を行っています。

◆「教養科目」は、建学の精神に関する理解を深め、本学での学びとキャリア形成を支援し、また、人間として、保育者として幅を広げるためのもとなる教養を高め、健康の維持・増進を図ることを目的とした科目で「教養科目」「外国語科目」「保健体育科目」「情報機器の操作」の領域で構成し、設置しています。「外国語科目」は国際共通語の1つである英語教育科目を設置していますが、幼児教育の現場で活用できる学習となる内容構成にしています。

◆「専門教育科目」は、保育・幼児教育の理念と原理を学修し、保育・幼児教育の実践に必要な専門知識や技能を身につけられるように、「保育・教育に関する科目」「福祉に関する科目」「保健・栄養に関する科目」「保育の心理学（保育対象の理解と支援）に関する科目」「保育内容・方法に関する科目」「保育・教育の実習・実践に関する科目」の6領域に渡って科目を設置しています。

◆実際に保育の現場で働くために必要な保育士証、幼稚園教諭免許状の取得できるように、さらに、保育士、幼稚園教諭としての実践力が身につくように「教養科目」と「専門教育科目」に含める教科目を重層的に構成しています。

◆資格・免許取得に関連して、「保育・教育の実習・実践に関する科目」の領域として、学内での事前・事後指導も含めて実習科目を設置し、保育者としての実践力の基礎を育み、グループによる演習形式で、保育内容研究及び実践演習を行う科目を設置しています。

◆実践演習に関しては、本学の全専任教員（現場経験者を含む）と、現場に立つ保育者の指導により、各自今までの保育に関する学びを振り返りつつ、全面的に各自の学びの見直し、深化させ、実践力を高められるよう、学びの統合、総合化を図れるようにカリキュラム構成しています。

◆所定の科目を2年間で履修することにより保育者としての専門知識や技能の修得に加えて、キリスト教の精神Ⅰ・Ⅱ、教養演習、保育総合演習の授業、行事、日常生活、課外活動を通じて、建学の精神である「愛と奉仕」の精神、問題解決力、表現する力、実行する力、礼儀・マナーなどの「人間力」、保育者としての「コンピテンシー（有能性）」を高めることができるように支援していくことも、本学の広義の教育課程と位置づけ、行事を企画・指導、日常生活の指導・支援、課外活動の奨励・支援を適切におこなっています。

◆保育者になるという目標を明確にし、専門職者としての職業意識を高めるため、保育・幼児教育の専門教育と連携させつつ、教養科目の枠内で、1学年の教養演習、2学年年の保育総合演習の授業の中にキャリア教育・支援のための時間を設定しています。

入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー「どのような人物を求めるか」

本学の教育理念にある通り、人のため、社会のために「愛と奉仕」を実践、実現できる保育者を志し、本学（保育科）での学修を達成するために必要な学力を含めた諸特性を備えた人物を求めます。

「本学が求める人物像」は

- 保育者をめざす強い目的意識をもっている
- 他者を理解し思いやる心をもっている
- 保育者にふさわしい以下のような人柄・能力をもっている
- 明朗さ ●社会性 ●協調性 ●奉仕の心
- マナーを含めた社会常識 ●自己表現力 ●国語力(特に文章表現力)

このように、心豊かで、社会性のある、コミュニケーション能力に優れた人に、ぜひ入学してもらいたいと願っています。

具体的に高校までに習得すべき内容等として、保育・幼児教育に携わる保育者になるということから当たり前のことと思いますが、

- コミュニケーションの基本である「挨拶」ができること
- 社会的規範・ルールを順守することができるといったことも含めた「社会常識」を有していること
- 自律的に心身の健康を維持する生活をおくっていることを挙げておきます。

将来保育者として、子どもと関わるためにできるだけたくさんの知的な引き出しを用意しておくことも大切です。

そのために、本学に入学してからも多くのことを学びますが、高校での学習の段階においても、

3年間を通じて、特定の教科に限定することなく、幅広く、全教科に渡って、しっかり学習に取り組んでいることが大切になります。

また、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状の取得要件となる科目を全て学習していく必要があることから、苦手な科目にも取り組もうとする基本的な学習姿勢、学習意欲を持っていることが重要になります。

そして、「本学が求める人物像」の項目にも掲げましたが、「国語力」は保育者にとって特に大切な能力です。

保育の現場では、日誌など種々の記録・書類を作成し、連絡帳を書き、クラス便り等を発行することが日常的仕事に含まれていますし、実習でも日誌記録作成等は必須です。

このようなことから、現代国語、現代文に関連する科目の習熟度は概ね平均的水準以上であることが要件となります。

(余裕がある人は、入学までに、漢字検定の少なくとも準2級、できれば2級の取得が望ましいでしょう。)

#### ・研究活動について

本学は、保育科単科の短期大学であり、先に記載した、建学の精神の実現と、教育に関する3つの方針を踏まえ、本学の教員には、研究費の支給を行ない、保育学、保育実践、保育技術、保育者養成教育に関連する研究分野を中心に研究を進めることを希求し、研究・紀要編集委員会を組織して、2019年度も、学内研究発表会の開催、横浜女子短期大学研究紀要を刊行した。

本学教職員は、本学研究紀要への投稿の他、保育学会を中心に、研究発表活動、学会誌等への研究論文の発表等の研究活動を行なった。

### (2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

#### ◆中期的な計画

2018年6月に策定した中長期ビジョン（計画期間2019年度～2022年度）の初年度となる2019年度は、短期大学の教学面で新規の取り組みとして準備を進めてきた少人数のゼミ制度（1年次・教養演習、2年次・保育総合演習）について、まず新教育課程に移行した1年生から導入する形で予定通り始動させた。

施設設備については、良好な教育環境と安全性を維持するため、保守点検等を踏まえ、毎年度作成する単年度の事業計画に沿って当初予定していた以外の各種更新工事なども行っている。2019年度は短期大学で合同教室の空調更新工事、教務システムのハードウェアリプレース工事、図書館の書籍用リフトのリニューアル工事、附属幼稚園で1、2階廊下天井塗装補修工事などを実施した。

厳しい状況にある財務の改善に向け大きな要素を占める短期大学部門の学生生徒等納付金収入の増加を図るため、学生募集対策を喫緊の最重要課題とし、各種の施策を推進している。2019年度は、指定校推薦入試で受験生の検定料免除と特待生の入学金免除、神奈川県・東京都以外の高校を対象にした地域特別推薦入試合格者の入学金免除を実施し、志願者増の効果を上げた。また、本学卒業生も含めた現職の幼稚園教諭のニーズを踏まえ、幼稚園教諭免許更新講習を開始し教育活動収入の増加につなげている。

併せて管理経費を極力抑える努力を継続するとともに、人事面では全体的に年齢構成が高い状態にある教職員の若返りを図り、総支出に占める割合の高い人件費の抑制につなげるよう取り組んでいる。2019年度は法人全体（短大部門と附属幼稚園部門）で教職員5名が退職（うち定年退職者1名）し、新卒の幼稚園教諭1名（2020年4月から勤務）を採用した。

## ◆ 2019年度における事業の進捗・達成状況

2019年度は、平野建次白峰学園理事長、横浜女子短期大学学長の1月逝去を受け、理事長、学長、附属幼稚園園長の職は3名が分けて引き継ぎ、また、保育センター室長の2月交代も重なり、緊急的に再編された執行体制でのスタートとなった。

2019年度は、本学の独自性を堅持しつつ、2016（平成28）年度の短期大基準協会（現・大学・短期大学基準協会）による評価結果も参考にし、理事会、評議員会、監事よりの提言を受けて、教職員一丸となって学生募集対策、教育事業等の改善を進めた。年度の開始にあたっては、教職員の間で、情報、危機意識の共有、意思統一、協力態勢の強化を図るために、新理事長、新学長による今後の本学の取り組みに関する説明会、全体会を開催し、教職員の結束、協力の呼びかけを行ない、これを毎年度全体集会として開催することにした。

まず、学生募集に関してだが、近年の動向からみると、2016（平成28）年度4月には、一旦は入学定員の充足が達成されたが、その後は、本学の努力だけでは対応困難な社会的状況要因の影響もあり、学生募集状況が急激に悪化する状態が2年度続いた。前年度になる2018年度においても、本学保育科の人気回復、入学定員の充足を一番の重要課題として、学生募集に関して対策の強化を図ったが、当該年度は、2018年問題といわれる少子化の大波が18歳人口にまで波及するようになる境界期にあたり、本学が実施した緊急的対策では、効果を上げることができず、2019年度入学者数が2018年度よりもさらに減少し、2019年度学生在籍数が、総定員の半分を下回る極めて深刻な事態に至った。

このような事態を踏まえて、2020年度に向けての学生募集対策を事業計画に基づき実施展開した。その結果、2019年度に展開した学生募集活動は、指定校推薦入試を中心に一定程度の成果を挙げ、2018年度に比べ約30名分の入学者数を回復できた。

一方、教育事業についてだが、幼稚園教諭養成課程と、指定保育士養成課程としての2018年度に行われた再課程認定の申請に合わせて、入学者数の回復へ繋げるための根本的課題という認識で、時代の求めに対応した教育内容の実現、入学者の特性に沿い、ニーズに対応できる短期大学教育の実現に向けて、本学教職員が全力を挙げて、教育課程の再編を行ない、2019年度は、教育課程の総合的、抜本的な見直しを進めた、新たな教育課程にもとづいて、よりきめ細かい教育と、行事の単位化、キャリア教育及びキャリア支援の単位化を実現する1年目として、教職員一体となって教育、教育支援の展開を行った。

また、地域も含めた対外的な貢献等に関しては、現任保育士を対象とする保育センターの研修事業に加えて、2019年度より幼稚園教諭免許状の更新講習も実施を開始した。保育人材の確保に向け、また、実習現場での実習指導改善への取り組みについて、横浜市、神奈川県行政、横浜市の幼稚園団体、保育園団体、神奈川県の保育園団体と積極的に連携して状況改善の足場づくりに取り組んだ。なお、本学が20年以上に渡り担当してきた神奈川県保育士養成施設協会の会長業務は、2020年度より副会長校等の協力を得て行う輪番へと規約改正を行い、本学は、この輪番制移行に伴い、2019年度末で会長校業務から降りることとなった。代わりに、2020年度より、本学は神奈川県私立短期大学協会会長校に就任することになった。

なお、2019年度末における業務態勢見直しについてだが、2019年度末で、キャリア支援室長及び図書館長が交替することとなり、2020年度より、新たな長は専任教員が兼務する形で引き継ぐこととし、総務部と学務部の職員の部署間異動と併せて、教育及び学生生活、キャリア支援等について、今まで以上に教職員一丸となった実践展開を可能とするような人事異動を図っている。

2019年度の事業展開については、基本的に事業計画を順調に進めることができていたが、全く想定外の事態として、新型コロナウイルスの日本、世界での感染拡大が生じ、2月末からは、学生、教職員及びその家族の健康・安全・生命を守る必要から、卒業式の式典をはじめ、殆どの学事を休止、中止とせざるを得ない状況に直面することとなった。

(2020年度現時点の状況について)

2020年度がスタートしているが、4月はじめの時点でも、入学式の中止をはじめ、学生を集めて授業、集会等を実施できるような状況ではなく、さらに新型コロナウイルス感染症の日本国内、首都圏での拡大が進み、緊急事態宣言が発出され、神奈川県知事よりの休業協力要請を受けて、5月1日時点においても、対面授業が開始できない状況が続いている。既に4月13日の段階で、在宅させている1・2学年全学生に対して学習課題を出し、緊急事態宣言が少なくとも5月末までは延長される可能性が高いこと、緊急事態宣言が終了したとしても直ちに通常の対面授業を再開することは困難であろうことも見越して、5月7・8日以降、遠隔授業による前期授業を開始することとした。学生募集も当面はWebオープンキャンパス等を中心に対応する。教育事業も学生募集も事業計画から大幅な変更対処が必要となっている。この新型コロナウイルス感染症の拡大の問題は、感染の危険性にさらされながら働き続けなければならない保育士の状況をクローズアップさせてしまい、保育者の仕事に対するマイナスのイメージが形成されてしまうことを保育の現場も、保育者の養成を使命としている本学も大いに懸念している。今後の保育科の学生募集にどれだけ負の影響を及ぼすか、きわめて深刻な問題になってくるであろう。さらに、国の政策面では学生及び学生の家庭の収入減の影響で、校納金納入が困難になった学生、退学を考える学生や家庭への大学に対する支援要請、学期開始時期を4月から9月へと移行する提案の浮上等もあり、今後どのように状況は変化し、それに対応していくのか、この未曾有の事態への対処に関しては、課題山積の状態である。

### (3)その他

学事の実施等に関する概要等

《横浜女子短期大学》

月	日 (曜日)	学年	事項
2019年 4月	1日 (月)	1・2	入学式
		2	オリエンテーション
	2日 (火)・3日 (水)	1	オリエンテーション
		2	授業開始
	4日 (木)～5日 (金)	1	修養会 (学内学びのオリエンテーション) ・ギデオン聖書贈呈式
	5日 (金)	1・2	午後 新入生歓迎会
	8日 (月)	1	授業開始
9日 (火)	1・2	健康診断	
5月	9日 (木)～17日 (金)	1	1日実習
	11日 (土)	1	美しき躍動練習・補講
	24日 (金)	1・2	美しき躍動リハーサル
	25日 (土)	1・2	第36回「美しき躍動」 共催：協力会 於：横浜文化体育館 幼稚園・保育園児、保護者等参加
6月	1日 (土)	1	「保育学生の集い」参加 主催：県保育士養成施設協会
	5日 (水)・6日 (木)	1	施設見学
	3日 (月)～21日 (金)	2	教育実習 (実習指定園に配属・15日間)
	29日 (土)	2	補講
7月	6日 (土)	1	実習指導授業
		2	保育内容研究授業
	13日 (土)	2	補講
29日 (月)	1・2	終業集会	
8月	5日 (月)～7日 (水)	1	定期試験
	6日 (火)～7日 (水)	2	定期試験

8月	8日(木)～9月23日(月)	1・2	夏季休業
	22日(木)・23日(金)	1・2	おもちゃインストラクター養成講座
	27日(火)・28日(水)	2	実習オリエンテーション
	29日(木)・30日(金)	1	実習オリエンテーション
9月	2日(月)～20日(金)	2	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ
	5日(木)～20日(金)	1	教育実習(1年次)
	24日(火)	1・2	後期始業集会・前期臨時試験
10月	9月25日(水)～1日(火)	1・2	空き時間・5限目に前期臨時試験
	2日(水)～4日(金)	1・2	秋季特別研修 特別研修
	19日(土)	1・2	運動会
12月	7日(土)	2	「保育の日」
	11日(水)	1	附属幼稚園クリスマス会(於:本学講堂) 午後 補講
	14日(土)	1	保育祭(旧・クリスマス子供会)
	23日(月)	1・2	クリスマス集会
12月24日(火)～1月5日(日)		1・2	冬季休業
2020年 1月	6日(月)	1・2	新年集会
	16日(木)	1・2	保育内容研究発表会(専属実習園々児招待)
	24日(金)	1・2	実習報告会
2月	3日(月)	1	午前 補講
	3日(月)～6日(木)	2	定期試験 6日午後 乳幼児応急手当認定資格
	4日(火)～6日(木)	1	定期試験
	7日(金)	1	実習オリエンテーション
		2	乳幼児応急手当認定資格
	12日(水)～29日(土)	1	保育実習Ⅰ(保育園)(県内保育所に配属・12日間)
	14日(金)・17日(月)	2	定期試験結果配付・手続
	18日(火)・19日(水)	2	臨時試験(追・再試験)
	27日(木)	2	臨時試験結果配付・手続
	28日(金)	2	卒業臨時試験
3月	4日(水)	2	卒業臨時試験結果配信
	11日(水)・12日(木)	1	定期試験結果配付・手続
	12日(木)	1・2	卒業式リハーサル(中止)
	13日(金)	1・2	卒業式(式典中止・学位授与のみ)
	16日(月)	2	卒業を祝う会(中止)
	16日(月)・17日(火)	1	臨時試験
	18日(水)～31日(火)	1	春季休業
	23日(月)	新1	入学生連絡説明会(中止)

《実習に関する連絡会議の開催》

- 11月19日(火) 2学年配属の児童福祉施設に対する保育実習連絡懇談会(学内で開催)  
11月21日(木) 2学年配属の幼稚園に対する教育実習連絡懇談会(学内で開催)

《学生募集対策》

- 1) 学生募集要項、大学案内の発行
- 2) 各種進学説明会への担当者派遣
  - イ. 神奈川県私立短期大学協会主催「県内公立高等学校進学担当者との進学懇談会」
  - ロ. 神奈川県私立短期大学協会主催「高校生と保護者のための進学相談会」
  - ハ. ㈱さんぼう等企画会社の進学説明会(県内高校会場を含む)



3) 受験情報誌等に広告を掲載

4) オープンキャンパス

2019年	4月20日(土)	第1回オープンキャンパス
	5月19日(日)	第2回オープンキャンパス
	6月23日(日)	第3回オープンキャンパス
	7月7日(日)	入試相談会(昼)
	7月28日(日)	第4回オープンキャンパス
	8月25日(日)	第5回オープンキャンパス
	9月27日(金)	入試相談会(夜)
	10月6日(日)	入試相談会(昼)
	10月9日(水)	入試相談会(夜)
	10月17日(木)	入試相談会(夜)
	11月10日(日)	入試相談会(昼)
	12月26日(木)	入試相談会(昼)
2020年	1月24日(金)	入試相談会(夜)
	2月16日(日)	第6回オープンキャンパス
	3月29日(日)	第7回オープンキャンパス(中止)

《入学試験》

2019年	8月3日(土)	AO入試Ⅰ期
	9月8日(日)	AO入試Ⅱ期
	10月12日(土)	AO入試Ⅲ期
	11月4日(月・祝)	指定校推薦入試・公募推薦入試Ⅰ期・地域特別推薦入試Ⅰ期
	11月23日(土)	AO入試Ⅳ期・公募推薦入試Ⅱ期・地域特別推薦入試Ⅱ期 大学・短大卒業予定者入試Ⅰ期・社会人入試Ⅰ期 (入学前教育プログラムを午後に開催)
2020年	1月18日(土)	AO入試Ⅴ期・公募推薦入試Ⅲ期・地域特別推薦入試Ⅲ期 大学・短大卒業予定者入試Ⅱ期・社会人入試Ⅱ期 (入学前教育プログラムを午後に開催)
	2月1日(土)	一般入試
	2月17日(月)	AO入試Ⅵ期 大学・短大卒業予定者入試Ⅲ期・社会人入試Ⅲ期
	3月2日(月)	AO入試Ⅶ期 大学・短大卒業予定者入試Ⅳ期・社会人入試Ⅳ期

《横浜女子短期大学保育センター事業》

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市からの補助および横浜女子短期大学負担金による研修・研究事業

《教員免許状更新講習》

必修領域講習6時間・選択必修領域講習6時間・選択領域講習18時間を8月の5日間で開催

《その他の事業》

1) 講演会等、協力会・同窓会との共催による文化事業の開催

2) 体操教室

対象：地域の一般社会人 於：本学体育館

毎週火曜日午前中、年間36回。ただし最終の3月3日中止

《施設整備事業》

合同教室空調更新工事

書籍リフト制御巻上機改修工事

屋根防水工事(講堂・ピアノ室)

講堂漏水改修工事(2階トイレ・1F事務室)

学生ロッカー室出入扉改修工事

学務システム更新

図書システム更新

《横浜女子短期大学附属幼稚園》

1. 2019年度 園児在籍状況

	当初在籍数			期末在籍数			附 記
	男 児	女 児	計	男 児	女 児	計	
年少組	13	11	24	14	13	27	入園27名
年中組	20	23	43	21	24	45	入園5名
年長組	9	17	26	10	18	28	入園3名
	42	51	93	45	55	100	途中入園 含む

\* 新入園児 35名 (年少児 27名・年中児 5名・年長児3名)

2. 職員構成・クラス編成

園 長 1名 ・ 教 諭 8名	講 師	3名	絵画・体育・英語
年少組 2クラス 教諭 3名	嘱託医	2名	小児科・歯科
年中組 2クラス 教諭 2名	薬剤師		
年長組 2クラス 教諭 3名	栄養士	1名	

3. 年間保育日程及び行事

月	日 (曜日)	行 事
2019年4月	8日 (月)	保育開始 年長児へ進級26名・年中児へ進級43名
	10日 (水)	入園式 新入園24名 (年少児24名・年中児3名) 保護者等出席 (保護者47名・祖父母4名)
	25日(木)・26日(金)	年長組保護者個人面談 (全26名)
	26日 (金)	こどもの日祝会
5月	9日 (木)	遠足 於：油壺マリンパーク 園児親子参加 (園児86名・保護者90名)
	20日 (月)	交通安全指導 (磯子警察・磯子区役所・洋光台交通安全母と父の会協力)
	23日(木)・24日(金)	年少組・年中組保護者個人面談 (年少24名・年中組44名)
	25日 (土)	「美しき躍動」 主催：横浜女子短期大学 於：横浜文化体育館 園児親子参加 (園児66名・保護者108名)
6月	3日 (月)	歯科検診 (第1回)
	5日 (水)	花の日集会 年長児と共に 花を持参して交番・消防署・ 病院・駅・老人ホーム等を訪問 (悪天候のため子どもの訪問中止)
	6日 (木)	内科検診
	15日 (土)	親子の集い (父母出席 136名)
	21日 (金)	年中組親子食事会 (給食の試食) ばら組22名
	25日 (火)	年中組親子食事会 (給食の試食) ゆり組22名
7月	1日 (月)	保護者個人面談 年少組(希望者6名)・年中組(希望者5名)
	2日 (火)	保護者個人面談 年長組 (希望4名)
	5日 (金)	七夕まつり集会
	8日 (月)	年中組保護者懇談会 (35名)
	12日 (金)	年長組保護者懇談会 (18名)
	19日 (金)	1学期保育終了 夏休み《7月20日(土)～8月31日(土)》

月	日 (曜日)	行 事
7月	22日(月)・23日(火)	年少・年中組 夏期保育 (於:附属幼稚園)
	23日(火)・24日(水)	年長組 夏期保育 (於:附属幼稚園)
	25日(木)	卒園児同窓会 (小学生1年~6年 参加児童117名)
9月	2日(月)	2学期保育開始
	28日(土)	運動会 (於:横浜女子短期大学グラウンド)
10月	11日(金)	さつまいも掘り (年長組のみ)
	15日(火)	2020年度入園希望者説明見学会 (20名・内3年保育希望20名) 2020年度募集要項配布
11月	1日(金)	2020年度入園受付及び入園面接(3年保育18名・2年保育0名)
	8日(金)	感謝祭 (保護者124名・祖父母70名)
	15日(金)	一日動物村 (於:附属幼稚園々庭) 午前:園児対象 午後:地域の幼児も参加
	18日(月)	歯科検診 (2回目)
	25日(月)	保護者個人面談 (希望者) 年長組 (5名)
	26日(火)	保護者個人面談 (希望者) 年少組 (5名) 年中組 (5名)
	27日(水)	洋光台消防署による避難訓練
12月	11日(水)	クリスマス礼拝・祝会 (保護者参加133名・祖父母86名) 於:横浜女子短期大学講堂
	16日(月)	クリスマスパーティー
	20日(金)	2学期保育終了 冬休み《12月21日(土)~2020年1月7日(火)》
2020年1月	8日(水)	3学期保育開始
	15日(水)	もちつき (保護者参加20名)
	16日(木)	横浜女子短期大学2学年「保育内容研究発表会」見学 年長組参加 於:横浜女子短期大学講堂
2月	3日(月)	節分 豆まき
	5日(水)	2020年度入園児保護者説明会 (参加18名)
	14日(金)	親子の集い (保護者出席94名)
	17日(月)・18日(火)	年少組・年中組保護者個人面談 (年少組・全員27名、年中組・全員45名)
	20日(木)・21日(金)	年長組保護者個人面談 (参加28名)
	25日(火)	年中組保護者懇談会 (参加30名)
	27日(木)	年長組保護者懇談会 (参加16名)
3月	2日(月)	園生活のスライド映写会 (中止)
	3日(火)	ひなまつり集会 (縮小)
	3日(火)	横浜DeNA ふれあい野球訪問 (中止)
	6日(金)	年長組お別れ遠足 (於:江ノ島) (中止)
	6日(金)	お別れ会 (縮小)
	6日(金)	3学期保育終了 (早期終了)
	14日(土)	卒園式 (卒園28名) 保護者出席 (父母53名・祖父母なし) (縮小)

《毎月の行事》

- |         |          |
|---------|----------|
| 1) 身体測定 | 4月・9月・1月 |
| 2) 避難訓練 | 第4週(月曜日) |
| 3) 誕生会  | 第4週(水曜日) |

《特別指導》

- |         |             |       |                        |
|---------|-------------|-------|------------------------|
| 1) 英語指導 | (年中・年長組)    | 毎週火曜日 | アンネッカ・長尾 講師            |
| 2) 絵画指導 | (年少・年中・年長組) | 毎週木曜日 | 狩野 香 講師                |
| 3) 体育指導 | (年中・年長組)    | 毎週金曜日 | 梅澤 勇人 講師<br>(バディー体育教室) |

《その他の活動》

- ・ふたばクラス(未就園児のための親子クラス) 年12回
- ・のびのびクラス(14:00~18:00、水曜日は11:30~18:00)  
長期休み中の預かり保育は8:30~18:00で2号認定の園児のみ
- ・父母の会の活動  
総会開催 年2回(コロナウイルス感染拡大予防のため3月は中止)  
母親コーラス・運動を通しての健康作り(テニス・ストレッチ)

《横浜女子短期大学実習生受入》

1学年	1日実習	5月13日~5月21日	計91名
〃	9月実習	9月5日~9月19日(10日間)	3名
2学年	6月実習	6月3日~6月21日(15日間)	4名
〃	2月追加実習	2020年2月17日~21日(5日間)	2名

《外部研修生・実習生・職業体験》

- |           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| 小学校教員     | 2019年度は洋光台第三小学校の新規採用がなく研修なし    |
| 中学生職業体験学習 | 2019年度は洋光台第二中学校からの希望者がなく体験学習なし |

《職員研修》

4月24日	磯子区幼稚園新任歓迎全体研修会	1名	
5月17日	幼児教育無償化に関する勉強会(幼稚園協会)	1名	
6月3日	幼保小担当者交流会	1名	
6月18日	幼児教育無償化に関する説明会(横浜市)	1名	
7月10日	要保護児童対策地域協議会(磯子区)①	1名	
27日	聖徳大学夏期保育研修会	1名	
8月1日	運動遊び(保育センター)	1名	
2日	わらべうた(保育センター)	1名	
21日	発達障害児の研修会(療育センター)	1名	
23日	手遊びうた(保育センター)	1名	
9月20日	幼児教育無償化に関する説明会(横浜市)	1名	
11月5日	磯子区幼稚園全体研修会	7名	
2020年	1月22日	要保護児童対策地域協議会(磯子区)②	1名
	1月25日	横浜市幼稚園教育研究大会	9名
	2月3日	磯子区幼保小 園長・校長会	1名
	12日	幼児教育無償化に関する質疑応答会(横浜市)	1名

21日	園長・設置者研修会（幼稚園協会）	1名
3月4日	児童虐待に関する園内研修（磯子区）	9名

《横浜市幼稚園協会 運営委員会》

- ・園長が運営委員として参加

4月17日、5月7日、6月14日、7月9日、9月10日、10月21日、11月15日、  
12月17日、2020年1月14日、2月10日、3月コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・6月26日 横浜市幼稚園大会（永年勤続表彰） 7名
- ・1月30日 新年意見交換会 1名

《大学行事協力》

- 4月25日 1学年一日実習オリエンテーション 3名
- 5月23日 2学年部分実習案授業 3名
- 11月21日 実習園懇談会 2名

《施設整備事業》

- 1、2階廊下天井塗装工事 8月8日 完了 799,200円

《磯子区研究委員会》

横浜市幼稚園協会磯子支部として区内11園の園から各1名の委員を選出し、年間約6回～10回の研究委員会を開催している。保育に関する専門的で身近な研究をはじめ、職員の資質向上を目的とした磯子区全体の研修会を計画・実行することを主な活動としている。

3年に1回、毎年1月に開催される横浜市幼稚園教育研究大会において、研究の成果を発表し横浜市の幼児教育の水準を引き上げるための保育技術を磨く場となっている。今回は研究発表の担当支部に当たり、「保護者のコミュニケーションスキルアップ研究」と題して久保康子先生を講師に迎えて3年間研究してきた成果を発表する。

2019年度 4月19日、5月28日、6月21日、9月20日、10月29日、  
11月14日、11月28日、1月10日、1月21日 計9回

《永年勤続表彰》

横浜市幼稚園協会主催

- 10年表彰 1名
- 5年表彰 1名

2019年度の在籍園児数は入園児数が前年に比べ減少したため、93名でスタートした。5月、9月、11月に新入園や転入園があり、園児数は100名まで増えた。当園は、創立者平野恒の「おさなごにまなぶ」の教えをモットーに、職員は子どもたちの成長を丁寧に見守り導く中で様々な学びを得て、保育技術や資質向上を目指している。また、保育者養成一筋の伝統を誇る横浜女子短期大学の附属幼稚園として、恵まれた環境と整備された園舎で幼児教育を行い、幼児期の人格形成と知能及び身体的発育指導に努めている。そして、何より子どもたちにとって楽しい幼稚園であることを目標としている。

近年の傾向として、仕事に就きたいという母親が増えており、新規の取り組みとして開始した夏・冬・春の長期休み期間中の預かり保育を充実させ保護者にアピールしている。

体育指導では2019年度よりスポーツクラブから派遣された指導員が、年中・年長の2学年を担当している。当園では初の男性の体育指導者となるが、子どもたちをよく見て一人一人に合わせた指導を行っている。また、体育指導の保護者参観の実施や父母の会主催の講演会で講師も務めてもらっている。運動会では、年長組恒例の組体操はもちろん、年中組においてはバルーンを使った演技を指導して盛り上げ、進行・準備・片付けでも活躍いただいた。

10月より幼児教育・保育の無償化が開始となった。月額2万5,700円まで国から補助を受けられることになり、当園の保育料は26,000円であるため、保護者からは毎月300円を納めてもらっている。給食の副食費も保護者の収入により補助され、2019年度は6名が対象となった。

預かり保育についても、神奈川県の前かり保育補助金の申請を行った。夏休み・冬休みなどの長期休園期間中の預かり保育は初の試みであったが、保護者ニーズには合致していたと感じた。横浜市の2号認定園児は5～6名と少なめだったが、認定の枠に入らない園児もおり、15名が利用した。

当園では12月に磯子警察より交通安全への功労賞を受賞、1月には磯子消防署より防火・防災に尽力した功績に感謝状が贈られた。玄関に飾り園児や保護者にも周知した。

6月に横浜市幼稚園協会主催の永年勤続表彰があり、2019年度は10年表彰で当園の舟瀬友希教諭、5年表彰で酒井優奈教諭が受賞した。

洋光台地区で磯子区子育て支援課主催の「要保護児童対策委員会」が近隣の小学校、幼稚園、保育園、地区センターなどの施設の代表者を対象に3回開催された。その関係で幼稚園教諭にも「虐待」に対する認識を持って、園での早期発見につなげてほしいという磯子区からの依頼を受け、園内研修を行った。子どもとの会話、教師の目による傷やあざの発見、保護者との関わりから虐待が発覚するという様々なケースを聞いて、幼稚園教諭にとっても身近な問題であるという認識を持つ良いきっかけとなった。

新型コロナウイルス感染拡大問題を受け、卒園遠足、1年間を振り返るスライド映写会、DeNAベ이스ターズふれあい訪問は中止とした。誕生会、お別れ会などは縮小して行った。卒園式はプログラムの縮小とともに出席を両親だけに限定し、職員のみで28名の年長組を小学校へと送り出した。

《保育センター》

受講状況	定員 (a)	日数 (b)	延定員 (c)	申込者数 (d)					延申込 数 (b× d)	延出席 者 (e)	定員に対 する出席 率 (e/c)
				公立	%	私立	%	計			
研修名											
1 新任保育士研修	150	2	300	51	21	194	79	245	490	437	146
2 0歳児保育研修	400	2	800	61	11	476	89	537	1,074	1,011	126
3 1歳児保育研修	400	2	800	71	11	561	89	632	1,264	1,175	147
4 2歳児保育研修	400	2	800	66	12	489	88	555	1,110	1,047	131
5 3歳児保育研修	350	2	700	58	11	475	89	533	1,066	1,005	144
6 4・5歳児保育研修	350	2	700	66	13	449	87	515	1,030	938	134
7 インクルーシブ保育研修	200	2	400	36	31	79	69	115	230	176	44
8 中堅保育士研修	300	2	600	17	5	337	95	354	708	608	101
9-1 乳幼児救急法研修①	50	2	100	12	26	34	74	46	92	92	92
9-1 乳幼児救急法研修②	50	2	100	8	17	40	83	48	96	92	92
9-1 乳幼児救急法研修③	50	2	100	10	24	31	76	41	82	80	80
9-1 乳幼児救急法研修④	50	2	100	7	14	43	86	50	100	96	96
9-1 乳幼児救急法研修⑤	50	2	100	5	10	45	90	50	100	92	92
9-1 乳幼児救急法研修⑥	50	2	100	5	10	43	90	48	96	84	84
9-2 乳幼児救急法 けがの手当訓練①	30	1	30	4	19	17	81	21	21	20	67
9-2 乳幼児救急法 けがの手当訓練②	30	1	30	3	13	20	87	23	23	20	67
9-2 乳幼児救急法 けがの手当訓練③	30	1	30	5	16	27	84	32	32	28	93
10 主任保育士講座A	200	3	600	27	10	245	90	272	816	690	115
10 主任保育士講座B	200	3	600	26	12	192	88	218	654	530	88
11 園長・施設長講座	100	5	500	19	10	169	90	188	940	742	148
12 乳児保育講座	80	3	240	22	19	93	81	115	345	313	130
13 障害児保育講座	60	5	300	20	19	86	81	106	530	494	165
14 子育て支援専門講座A	60	2	120	28	31	63	69	91	182	139	116
14 子育て支援専門講座B	60	2	120	32	31	70	69	102	204	169	141
15 カウンセリング講座	40	5	200	11	19	46	81	57	285	270	135
16 カウンセリングを活かした 保護者対応講座	40	5	200	1	2	51	98	52	260	233	117
16 カウンセリングを活かした 保護者対応講座	40	5	200	5	9	53	91	58	290	245	123
17-1 特別セミナー・講演	100	1	100	28	29	70	71	98	98	78	78
17-2 特別セミナー実技(伴奏法)	40	1	40	4	10	38	90	42	42	41	103
17-3 特別セミナー実技(運動遊び)	100	1	100	14	9	143	91	157	157	135	135
17-4 特別セミナー(表現活動)	100	1	100	6	4	146	96	152	152	124	124
17-5 特別セ実技(保育素材)	50	1	50	9	14	57	86	66	66	63	126
17-6 特別セ実技(リトミック)	70	1	70	11	9	109	91	120	120	98	140
17-7 特別セミナー(わらべうた)	70	1	70	5	6	74	94	79	79	74	106
17-8 特別セミナー(保育研究)	15	5	75	4	15	22	85	26	130	114	152
18-1 保健衛生・安全対策講座	200	4	800	0	0	254	100	254	1,016	661	83
18-2 食育・アレルギー対応	200	2	400	0	0	261	100	261	522	457	114
18-3 マネジメント講座	200	1	200	0	0	258	100	258	258	216	108
計	4,965	88	10,875	757	11	5,860	89	6,617	14,760	12,887	119

## ◎研修事業について

2019 年度の研修事業計画においては、研修の質の維持・向上も考慮し出席者の定員数厳守の方針を打ち出していたが、保育士等キャリアアップ研修への参加希望者がたいへん多く、延べ定員数 1 万 875 名に対し、最終的な延べ出席者数は 1 万 2 千 887 名にのぼった。研修全体の定員に対する参加率は約 120%で、38 のプログラム、延べ日数 88 日 43 名の講師にご指導いただいた。

所管別の延べ参加者数（およびその割合）は、神奈川県 5,646 名（43.8%）、横浜市 5,219 名（40.5%）、川崎市 932 名（7.2%）、相模原市 592 名（4.6%）、横須賀市 498 名（3.9%）であった。

2019 年度も、前年度同様に、保育士等キャリアアップ研修の対象研修には定員数を超える多くの参加者があったのに対して、キャリアアップの対象外の研修については、その半数以上が定員割れの状況となっている。このことを踏まえて、2020 年度においては、キャリアアップの対象研修はなお一層の充実（定員増や新設）を図ると同時に、キャリアアップの対象外の研修については、保育現場における研修ニーズの見極めにも努めながら、さらなる見直し（整理・統合、新設など）を図る予定である。

なお、2019 年度の 2 月以降は、新型コロナウイルス感染の問題への対応が求められることとなり、予定していた一部研修の延期も余儀なくされた（次年度に振り替えで設定の予定）。引き続き、新年度においても、この（新型コロナウイルスの）問題への対応が大きな課題となっている。

## ◎調査研究事業

2019 年度は、各委員とも多忙であり本務の遂行に困難をきたすことも配慮し、調査研究事業の実施は行わなかった。



### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

##### ① 貸借対照表関係

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(千円)

	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
固定資産	4,516,598	4,857,517	5,160,305	5,330,600	5,330,600
流動資産	185,205	95,537	121,333	103,676	127,517
資産の部合計	4,701,803	4,953,054	5,281,638	5,434,276	5,458,117
固定負債	3,099	3,743	3,508	3,376	2,519
流動負債	170,790	149,573	237,573	209,704	306,243
負債の部合計	173,889	153,316	241,081	213,080	308,762
基本金	6,419,738	6,387,470	6,348,155	6,330,017	6,288,685
繰越収支差額	△ 1,891,824	△ 1,587,732	△ 1,307,598	△ 1,108,821	△ 1,012,451
純資産の部合計	4,527,914	4,799,738	5,040,557	5,221,196	5,276,234
負債及び純資産の部合計	4,701,803	4,953,054	5,281,638	5,434,276	5,584,996

##### イ) 財務比率の経年比較

(%)

	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
運用資産余裕比率	317.0	328.0	313.7	361.0	358.1
流動比率	108.4	63.9	51.1	49.4	41.6
総負債比率	3.7	3.1	4.6	3.9	5.5
前受金保有率	126.3	66.6	53.9	68.0	36.2
基本金比率	99.7	99.7	99.5	99.4	99.8
積立率	55.8	62.1	69.8	75.1	79.4

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(千円)

収入の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
学生々徒等納付金収入	275,155	320,797	421,871	538,774	495,100
手数料収入	2,405	3,206	4,062	4,432	6,942
寄附金収入	10,678	3,290	3,532	3,638	3,957
補助金収入	52,148	84,505	101,739	105,773	84,364
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	6,887	6,465	6,656	7,444	7,576
受取利息・配当金収入	17,663	17,939	17,998	19,004	24,952
雑収入	39,857	39,938	66,229	13,399	54,573
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	131,648	111,422	132,065	150,523	233,920
その他の収入	327,386	295,366	115,068	147,465	57,561
資金収入調整勘定	△ 130,339	△ 153,355	△ 200,673	△ 234,707	△ 264,995
前年度繰越支払資金	74,247	71,182	102,355	84,792	85,464
収入の部合計	807,735	800,755	770,902	840,537	789,414

支出の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
人件費支出	392,810	413,510	482,632	425,384	471,875
教育研究経費支出	123,034	125,296	134,428	125,844	114,985
管理経費支出	73,268	84,254	88,867	92,027	95,685
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	32,058	22,712	13,720	13,808	2,322
設備関係支出	12,040	4,841	16,420	56,659	10,093
資産運用支出	994	994	994	994	30,994
その他の支出	27,817	84,247	31,215	65,069	31,601
資金支出調整勘定	△ 20,574	△ 9,346	△ 68,556	△ 41,603	△ 52,933
翌年度繰越支払資金	166,288	74,247	71,182	102,355	84,792
支出の部合計	807,735	800,755	770,902	840,537	789,414

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(千円)

科目	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	387,131	458,201	604,091	673,461	652,512
教育活動資金支出計	589,114	623,060	705,928	643,255	682,545
差引	△ 201,983	△ 164,859	△ 101,837	30,206	△ 30,033
調整勘定等	22,900	△ 57,698	△ 20,882	△ 58,051	5,491
教育活動資金収支差額	△ 179,083	△ 222,557	△ 122,719	△ 27,845	△ 24,542
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	293,000	235,000	100,000	95,000	40,000
施設整備等活動資金支出計	45,091	28,547	31,134	71,461	43,409
差引	247,909	206,453	68,866	23,539	△ 3,409
調整勘定等	0	0	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	247,909	206,453	68,866	23,539	△ 3,409
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	68,826	△ 16,104	△ 53,853	△ 4,306	△ 27,951
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	38,097	28,153	32,279	29,278	53,352
その他の活動資金支出計	14,882	8,985	9,598	7,410	26,072
差引	23,215	19,168	22,681	21,868	27,280
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	23,215	19,168	22,681	21,868	27,280
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	92,041	3,064	△ 31,172	17,562	△ 671
前年度繰越支払資金	74,247	71,182	102,355	84,792	85,463
翌年度繰越支払資金	166,288	74,246	71,183	102,354	84,792

ウ) 財務比率の状況と経年比較

(%)

比率	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
教育活動資金収支差額比率	△ 46.3	△ 48.6	△ 20.3	△ 4.1	△ 3.8

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(千円)

科 目	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
教育活動収入					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	275,155	320,797	421,871	538,774	495,100
手数料	2,405	3,206	4,062	4,432	6,942
寄付金	10,678	3,290	3,532	3,638	3,957
経常費等補助金	52,148	84,505	101,739	105,773	84,364
付随事業収入	6,887	6,465	6,657	7,444	7,576
雑収入	40,501	39,938	66,229	13,399	54,573
教育活動収入 計	387,774	458,201	604,090	673,460	652,512
事業活動支出の部					
人件費	392,810	413,745	482,764	426,242	471,968
教育研究経費	201,693	208,734	220,042	219,777	194,149
管理経費	82,483	93,966	98,857	101,129	104,870
徴収不能額等	0	0	535	0	0
教育活動支出 計	676,986	716,445	802,198	747,148	770,987
教育活動収支差額	△ 289,212	△ 258,244	△ 198,108	△ 73,688	△ 118,475
事業活動収入の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
受取利息・配当金	17,663	17,939	17,998	19,004	24,952
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入 計	17,663	17,939	17,998	19,004	24,952
事業活動外支出の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
借入金利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出 計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	17,663	17,939	17,998	19,004	24,952
経常収支差額	△ 271,549	△ 240,305	△ 180,110	△ 54,684	△ 93,523
特別収入					
事業活動収入の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
資産売却差額	0	0	0	0	0
その他の特別収入	0	0	0	0	0
特別収入 計	0	0	0	0	0
事業活動支出の部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
資産処分差額	277	514	528	354	609
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出 計	277	514	528	354	609
特別収支差額	△ 277	△ 514	△ 528	△ 354	△ 609
基本金組入前当年度収支差額	△ 271,826	△ 240,819	△ 180,638	△ 55,038	△ 94,132
基本金組入額合計	△ 32,267	△ 39,316	△ 22,138	△ 41,331	△ 14,114
当年度収支差額	△ 304,093	△ 280,135	△ 202,776	△ 96,369	△ 108,246
前年度繰越収支差額	△ 1,587,732	△ 1,307,597	△ 1,108,821	△ 1,012,451	△ 904,205
基本金取崩額	0	0	4,000	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,891,825	△ 1,587,732	△ 1,307,597	△ 1,108,820	△ 1,012,451
(参考)					
事業活動収入計	405,437	476,140	622,088	692,464	677,464
事業活動支出計	677,263	716,959	802,726	747,502	771,596

イ) 財務比率の経年比較

(%)

比 率	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
人件費比率	96.9	86.9	77.6	61.6	69.7
教育研究経費比率	49.7	43.8	35.4	31.7	28.7
管理経費比率	20.3	19.7	15.9	14.6	15.5
事業活動収支差額比率	△ 67.0	△ 50.6	△ 29.0	△ 7.9	△ 13.9
学生々徒等納付金比率	67.9	67.4	67.8	77.8	73.1
経常収支差額比率	△ 67.0	△ 50.5	△ 29.0	7.9	△ 13.8

(2) その他

①有価証券の状況

(円)

種 類	当年度(2020年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの (うち満期保有目的の債券)	1,096,435,106 (1,096,435,106)	1,217,610,000 (1,217,610,000)	121,174,894 (1,096,435,106)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの (うち満期保有目的の債券)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計 (うち満期保有目的の債券)	1,096,435,106 (1,096,435,106)	1,217,610,000 (1,217,610,000)	121,174,894 (1,096,435,106)

②借入金の状況

・該当なし

③学校債の状況

・該当なし

④寄付金の状況

・特定寄附金 5,228,000円 ・一般寄附金 5,450,000円

⑤補助金の状況

・地方公共団体補助金 32,626,517円 ・県市特別補助金 19,522,000円

⑥収益事業の状況

・補助活動収入 6,034,990円 ・免許更新講習料収入 852,000円

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

属性	役員、法人等の名称	住 所	事業の内容 内容又は職業	決議兼の 所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	勘定科目	期末残高 (千円)
					役員の 兼務	事実上の 関係				
関係法人	社会福祉法人白峰会	神奈川県 横浜市港南区	保育事業	—	兼任 1名	役員 の 兼務	白峰保育園 新設資金 無利息貸与	30,000	長期貸付	28,500

イ) 出資会社

・該当なし

⑧学校法人間財務取引

・該当なし

### (3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

2019年度に実施した学生募集による2020年度の横浜女子短期大学入学者数は117名となった。教学と入試広報の両面で打ち出した様々な施策が一定の成果を挙げ、前年度を29名上回った。前年度に総定員に対し半数割れにまで落ち込んだ在学学生数は、ようやく5割を超えるところまで回復し、学生生徒等納付金収入も若干増加するが、依然として低水準の状態にある。このため法人全体（短期大学部門と附属幼稚園部門）の2020年度事業活動収支差額（基本金組入前）は、予算ベースで2億5,000万円の支出超過となる見通し。

こうした中、本学園の財務改善に向け大きな要素を占める短期大学部門の学生生徒等納付金収入の増加を図るため、入学生募集活動は引き続き最重要事項として取り組む方針。ただ、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた政府や自治体の要請に対応することを踏まえ、当初の計画に必要な修正を加えながら各種の施策を推進していく。

志願者（2021年度入学生）の呼び込みを図るための施策としては、指定校推薦受験生の検定料免除と特待生の入学金免除、神奈川県・東京都以外の高校を対象にした地域特別型推薦入試合格者の入学金免除を、それぞれ前年度と同様に実施する。いずれも志願者増の効果を上げていると見られ、さらなる伸びを期待できる。これまで実施してきたオープンキャンパス、高校訪問、志願者・保護者向けの入試相談会や高校の進学指導担当者を招いての説明・相談会の開催、各種進学説明会への担当者派遣、キャンパス見学の随時受け付け等の取り組みは、当分の間、形を変えてウェブサイトでのオープンキャンパスの動画配信、オンライン会議システムの活用や電話・メールにより個別相談に対応するなど、感染拡大防止の観点から可能な限り3密（密閉、密集、密接）を避ける方法で実施する。また、訪問を了解してもらえた高校には従来通り担当者が学生募集要項を持参し説明を行う。

新型コロナウイルス問題が収束した後は、教学面で前年度から導入した少人数のゼミ制度（1年次・教養演習、2年次・保育総合演習）を軌道に乗せ、学生の満足度向上につなげる。小規模短大であるが故の特長を生かし、学生と教職員が一体となり保育者養成に全力を傾けている横浜女子短期大学の姿を定着させ、志願者や保護者、高校など関係各方面に向け広く発信していく。

また、本学卒業生も含めた現役の幼稚園教諭を支援する目的で前年度から開始した幼稚園教諭免許更新講習は、2020年度も引き続き実施（2020年度は受講者にDVD等を郵送し通信教育方式で実施）し、さらに受講者を増やすことを目指す。

併せて短期大学での教育研究活動を円滑に推進できる環境を整えるとともに安全性を維持するため、本館、2号館、講堂、図書館等の施設設備について、各種の補修・改修・更新工事などを財務状況も踏まえた上で順次進める。工事の実施に際しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分に配慮する。

附属幼稚園では、2019年10月から国の方針に基づきスタートした幼児教育の無償化政策に対応するとともに、前年度から開始した夏・冬の長期の休み期間中の預かり保育をさらに充実させるなど、保護者ニーズに着実に応えていく。新型コロナウイルス問題が収束した後は、前年度まで週2回であった給食（自園の厨房で調理、現在休止中）を、2020年度の取り組みとして当初予定していた通り週3回に増やす。

白峰学園では、こうした横浜女子短期大学と附属幼稚園の諸活動を支えるべく良好な教育環境と財務基盤を整備する努力を続け、本学園の設立目的である児童福祉と幼児教育への貢献を具現化していく考えである。